第6 学年　国語科学習指導案

1　単元名　本は友達「わたしと本」「森へ」

2　指導の考え方

○　子どもの実態

本校では，毎週水曜日の読書タイムに朝の読書を行っている。本学級の子ども達は，この１５分間は集中して，本を読むことがよくできている。給食待ち時間にも本を開いて読むようになってきた。しかし，読んでいる本の種類は物語や小説が多く、幅広い種類の読書はできていない。また，読書に関するアンケートでは，本読むのが好き（８人）まあまあ好き（１３人）あまり好きではない（６人）きらい（３人）という結果であった。自分から図書室に行く子どもや家庭で読書をしている子どもは、８ 人で、まだまだ自ら進んで本を読む子どもは少ない。

本学級の子ども達はこれまでに、「カレーライス」と「生き物はつながりの中に」の学習で、自分の体験とのつながりを見つけて感想を書いたり、筆者の意図をとらえて自分の考えをつくったりしてきた。考えを書く際には、自分なりの言葉で短く書きまとめることができる。しかし，叙述を追いながら書かれている内容を読み取るのに精一杯で、文章全体から内容や要旨を考える読み方は十分身についていない。順序や大体をとらえるための読み方が身についていない子どもも見られ，６年生になって，読み方を意識するように指導しているところである。また、自分の意見は持っているものの、発表することを苦手とする子どもも多い。

○　教材の特質

本単元は、「わたしと本」と「森へ」の二つで構成されている。

「わたしと本」は、自分と本との関わりをじっくりと振り返ったり、友達と互いの思いや経験を交流し合ったりすることで、本がもつ役割や価値に気づき、本との関わりをさらに広げようとするきっかけとなる教材である。「森へ」は、写真家である筆者、星野道夫さんがアラスカの森の中に身を置いて、感じたり考えたりしたことを写真と文章で構成した作品である。この作品の特色は、アラスカの自然の中で生きる命を伝えるさまざまな擬人化表現や比喩表現、そして、写真が伝える迫力と美しさである。それらをもとに、筆者の森に対する感じ方・考え方の変化を読み取り、その理由を考えさせることで、作者が感じた森の世界観に迫る読み方ができる。また、星野氏の他の作品と比べて読むことで、題材や描かれているものの違いの中に共通して描かれる自然の美しさや命のつながりなど共通点や相違点を知り、多くの本を読むことの意義や楽しさを実感させることができる教材である。

○　指導にあたって

本単元は、読書人として自立していくための小学校での仕上げとして、また、子ども達がよりいっそう読書を身近なものと感じられることを願って設定されている。そこで、以下のような学習を展開する中で、読むことの楽しさや価値を実感させ、筆者の情報や表現、構成などの作品の特色に触れながら、読書生活を高めていくことをねらう。

指導にあたっては、まず、「わたしと本」で自分の読書生活を振り返り、２人の作家が書いた文章を読み、「わたしと本」というテーマで文章を書き、交流する。ここで、読書は自分に何らかの変化をもたらしてくれるものだという共通点を見出し、今まで読んできた物語や伝記とは違うジャンルの写真と文章で表現された本を読むことを通して、自分の本に対する変化を見つめ、自分の読書生活を高めていこうとする構えをもたせる。

次に、「森へ」の題名や筆者の情報、冒頭から「星野さんは森で何に出会い、どんなことに感動したのだろう。」という読みのめあてをつくらせる。そして、予見を方向づけ、それぞれの考えを出し合わせる中で読み確かめる視点を生みだし、学習計画を立てる。それから、擬人化表現や比喩表現、写真に着目しながら、星野さんの森に対する感じ方の変化に気づかせる。その後、星野さんの自然に対する考え方をまとめさせ、自分の考えの変化を書きまとめさせる。そして、ブックトークで星野さんの他の作品を紹介し、次に読んでみたい本を選ばせる。その際、なぜそれを選んだのか視点を与えて理由を書かせ、交流する。最後に、自分が選んだ本を読み、書店にあるようなポップを書かせ、読み合い、さらに次の読書へとつなげさせたい。

3　単元の目標

○　写真と叙述をつないで読む、擬人法のことばをはずして読む、比喩表現をはずして読むなどの読み方を習得し、他の作品を読む際に活用することができる。

○　星野さんの他の本を選び、比べて読むことで、星野さんの考え方、自然に対する見方を広げ、自分の考え方も広げることができる。

○　きびしい自然の中でたくましく生きていく姿や命がつながっていく様子を読むことによって、自分の自然に対する考えを広げたり深めたりすることができる。

4　学習計画（全８時間）

次	時	学習活動と内容	指導上の留意点（※は読書へ開く視点から）
一学習のめあて	1	１　単元名「本は友達」とリード文から、単元の学習の目的と見通しを持つ。 （1）自分の読書経験を振り返る。 （2）２人の作家が書いた文章を読んで、自分にとって本がどんな存在か考え、発表する。 （3）星野道夫さんの紹介を聞き、今まであまり読んだことのない写真と文の本を読んでいくことを知り、学習の構えをつくる。 〈単元のめあて〉 本との関わりを広げ、読書生活を高めていこう。	○事前に宿題で読書経験についてアンケートをとっておく。 ※読むと自分にどんな変化が起きるか、どんな本が好きかについては、時間をとって交流させる。 ○自分にとって本がどんな存在か、短い文章で書かせた後、発表させる。 ※「森へ」の写真を実物投影機で映し、新しい本への興味を抱かせる。 ○現時点での自然に対する考えを書かせておく。
二はじめの読み	2	○　題名と冒頭、写真から読みのめあてをつくる。 （1）　題名と冒頭をつないで読みのめあてをつくる。 〈読みのめあて〉 星野さんは、森で何に出会い、どんなことに感動したんだろう。 （2）　全文を音読する。 （3）　難語句の意味を理解する。	○「森へ」と「森に」を比べさせる。 ○「原生林の森」ではなく、「原生林の世界」と書いてある意図を考えさせる。
	3	○　読みのめあてをもとに全文を読み通し、予見を書きまとめる。	○森での出会いによって、森に対する見方や考え方が変化したところを中心に予見を書きまとめさせる。
三学習計画	4	○　予見を方向づけ、学習計画をたてる。 〈予見〉 星野さんは森へ入り、キノコやサケ、倒木に出会い、森が長い時間をかけて次の命へとつないでいくことに感動した。	○様々な物語とはどのような物語なのかを確認し、星野さんがそこで感動し、伝えたかったことを確かめさせる ○「森はゆっくりと動いているのでした。」とは、どのような意味か確かめさせる。
四読み確かめ	5	○　表現の効果を味わいながら、「森へ」を読む。 ・「森がゆっくりと動いているのでした」とはどういうことか、作者の表現の効果に着目して読み確かめる。	○擬人化表現・比喩表現・写真を読む読み方を習得させ、星野さんの感動を確かめさせる。
五学習の	6	○星野さんが森で感動したこと、伝えたかったことについてまとめ、自分の考えの変化を書きまとめる。	○星野さんの自然に対する考え方をまとめさせ、自分の考えの変化を書きまとめさせる。 ○書きまとめる際の視点として、表現、写真、見方考え方を挙げておく。

まとめ	7（本時）	○星野さんの他の作品を知り、読みたい本を選ぶ。 （1）「森へ」を振り返る。 （2）ブックトークを聞く。 （3）読みたい本を選び、なぜその本を選んだのか理由を書き発表する。	※「森へ」を振り返らせた後、星野さんの他の作品の写真を実物投影機で映し、興味を持たせた後、教師によるブックトークを聞かせ、次の作品へと導く。 ○理由には、「森へ」で読み取った自然に対する考え方と関連づけて書かせる。
	8	○自分が選んだ本をポップで紹介する。 ○これからの読書生活について書きまとめる。	※ポップには、①キャッチコピー②薦めたい写真や表現③一番薦めたい点とその理由を簡単に書かせる。書いたポップは、本の近くに配置する。

5　本時の目標（7／8）

○　ブックトークを聞き、星野さんの他の作品について興味関心を持つことができる。
○　読みたい本を選び、その本を選んだ理由を「森へ」で読み取ったことと関連づけて発表することができる。

6　本時指導の考え方

○　本時の位置づけ

前時までに子どもたちは、表現の効果を味わいながら「森へ」を読み、星野さんが伝えたかったことについて自分の考えをまとめている。本時は、星野さんが書いた他の本へ興味関心を持たせ、読書に開く時間である。

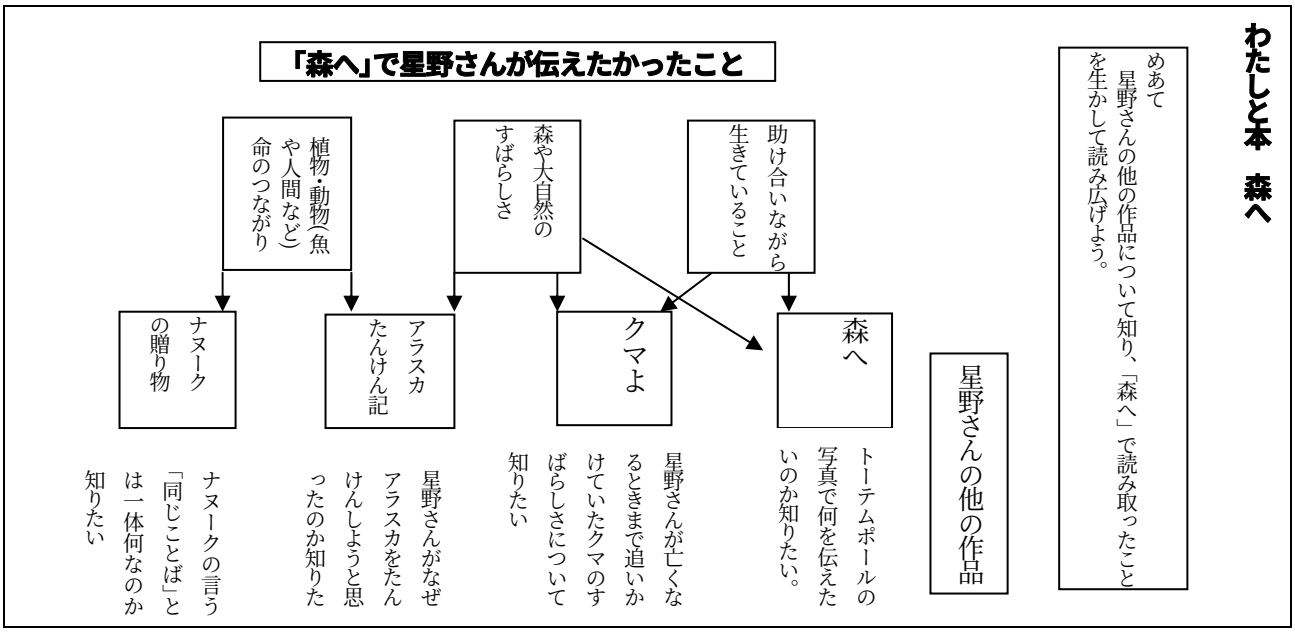
本時においては、まず、「森へ」で星野さんが伝えたかったことと自分の自然に対する考えの変化について振り返らせる。次に、ブックトークを聞き、星野さんが書いた様々な本について知らせる。用意する本は,「森へ」の後半部分,「アラスカたんけん記」「クマよ」「ナヌークの贈り物」等である。そして、読みたい本を選び、なぜその本を選んだのか「森へ」と関連づけて理由を書かせ、発表させる。

このような活動を通して、星野さんの他の作品についての興味関心を引き起こさせ、読書に開かせていきたい。

○　本時の学習において、確かな言語力を次のような子どもの姿として具現化したい。

- 星野さんの他の作品を紹介しているときに、教師の話を興味を持って聞いている姿
- 星野さんの他の作品と「森へ」のつながりを考えて，自分の考えをまとめる姿
- 星野さんの他の作品を実際に手にして自分から読もうとしている姿

7　板書計画



8　本時の展開（　7／8　）

学習活動と内容	指導上の留意点
1　「森へ」を振り返り、本時のめあてを確認する。	○　前時までに学習した星野さんが伝えたかったことを掲示物で確認し、「森へ」を振り返らせる。
・「森へ」で星野さんが伝えたかったことは、自分たちが想像もつかないようなゆっくりとした時間の中で、命がつながっているすばらしさだと思います。私は「森へ」を読む前は自然をゆっくりする場所で人が休む場所だと思っていたけど、「森へ」を読んで自然は動物や植物の命のつながりがある神秘的な場所だと思いました。	
〈本時学習のめあて〉	
星野さんの他の作品について知り、「森へ」で読み取ったことを生かして読み広げよう。	
2　ブックトークを聞く。	※　星野さんの他の作品の写真を実物投影機で映し、興味を持たせた後、教師によるブックトークを聞かせ、次の作品へと導く。 〈紹介する本〉 ・森へ　・アラスカたんけん記 ・クマよ　・ナヌークの贈り物
3　読みたい本を選び、なぜその本を選んだのか理由を書く。	○　次の交流に生かせるように、文章の型の例を挙げておく。
・私は、アラスカたんけん記を読んでみたいです。その理由は、「森へ」で描かれていた自然のすばらしさ、命のつながりをこの本からも見つけてみたいからです。 ・ぼくは、ナヌークの贈り物を読んでみたいです。その理由は、ナヌークの言うことばが何か気になったからです。「森へ」と同じようなことを伝えたいのかそれとも違うのか、読んで確かめてみたいと思ったからです。	
4　読みたい本の題名とその本を選んだ理由を発表し、交流する。	○　まずは、少人数で交流し、発表の型を練習させ、自信をつけさせる。その後、全体で交流し、友達の気づきのよさを発表させる。
5　次時は、ポップにまとめ友達に紹介することを知る。	